

セラミックス栽培、いよいよ量産化 ～「水やり」大幅に少なく・土いらず～

セラミックスを使った植物栽培技術を当社が開発してから4年がたち、テスト販売を経て、いよいよ量産化の段階を迎えました。心なごませる緑の観葉植物、自然を思い出させるツル性植物、かわいらしい花を咲かす花木などを、セラミックスとともにビンや鉢、ポットに入れて育て、ひと月に5000本～10000本を生産・販売する態勢が整いました。「たまに“水やり”をすればよく、手間がかからない」「土がなくても育つなんて不思議」などセラミックス栽培の特徴とも言える声があちこちで聞かれます。

この技術は、水がセラミックスの微小な穴を通じ、毛細管現象という力でセラミックスの中に行き渡り、植物はそのセラミックスに張り付く根から水を吸収するというものです。水は植物が吸う分だけですみ、普通の土の鉢物で蒸発や流出によって無駄になっている分の水が節約され、必要な水の量が大幅に削減できるわけです。10月には米国で特許が認められました。

セラミックス栽培植物にまつわる話として、たとえば、大阪市北区にある林野庁の近畿中国森林管理局が昨年秋に開いた「森の市」にセラミックス植物を出品しましたが、その時のものが1年たった現在も元気に育っています。「管理も楽だし、長持ちする」と同管理局の関係者は喜んでいいます。「1年

経っても元気なのはなぜか」という質問が多く、説明すると、皆さん、セラミックスの持つ不思議な力と奇抜な技術に感じ入っていました。

本年の森の市では、昨年購入された方も何人かみえており、その後の状況を伺ったところ、全員が「元気で生きている」とのうれしい返事でした。「昨年買ったのがとても気に入っているので、娘たちの家にもプレゼントする」と2本購入された熟年夫婦もいました。

岐阜県可児市にある中学校では、「発想の転換」を示す一つの例として、先生が生徒たちのために購入したセラミックス栽培の観葉植物が、3年生の教室で元気に育っています。もう、半年以上もちます。土がないのに植物が生育する



1年経っても元気なセラミックス栽培植物
(近畿中国森林管理局で)

のに生徒たちが興味をいだき、水がたまになくなると自発的に補充したりしています。

セラミックスを使った栽培はいまのところ、緑あざやかな観葉植物が多いのですが、可児市で店を開いている三宅百合子さんは花ものの栽培も軌道に乗せています。ハナキリンはピンク色の花を次々に咲かせ、9ヶ月間ももっているのがあります。アブラギリは軒下にほったらかしていたのが春に葉っぱを出したので、その強い生命力に注目して、セラミックスに植え換えたところ7月と11月の2回、オレンジ色の花をつけました。このほか、ベゴニア、シクラメン、アンズリウム、インパチェンスなどの花も栽培できました。三宅さんは趣味でガーデニングを10年間続け、植物に対する豊富な知識を持っているのが強みで、店内にはセラミックス栽培の多彩な植物が並べられ、はなやかです。それにしても、「水やり」は2週間に1度ですみ、土の鉢だったら1～3日に1度はやらねばならないのに手間



セラミック植物栽培について語り合う
(東京都品川区の店で)

が省ける、お陰で旅行にも安心して行けると言っています。

当社はいま小型の植物をインテリアなど室内を飾るもの中心に生産・販売していますが、いずれビルのロビーなどに置く中型観葉植物、さらに、都会に炎熱をもたらすヒートアイランド現象をやわらげるための屋上緑化や壁面緑化にセラミックス栽培技術を実用化しようとしています。



彩り豊かなセラミック栽培の店頭(岐阜県可児市のセラグリーン三宅で)

お問合せ先



TEL 0774-46-1351

FAX 0774-48-1005

担当：岡本

<http://www.ceragreen.com/>

e-mail phyto@hexatube.com